

南丹市子育て発達支援センター運営委員会議事録

平成29年度第2回

(平成30年3月13日)

平成29年度第1回南丹市子育て発達支援センター運営委員会議事録

1. 日 時 平成30年 3月13日 (火)
開 会 午前10時 00分 閉 会 午前11時 30分
2. 場 所 南丹市役所 4号庁舎 2階会議室
3. 協議事項 別紙次第のとおり
4. 出席委員 村上委員長 平田副委員長
平井委員 木村委員 安木委員 大倉委員
寺田委員 松本委員 河原委員 西浦委員
5. 事務局 福祉事務所長 榎本
社会福祉課参事 矢田
発達支援係長 山崎
社会福祉課 村上
つくし園施設長 長田
6. 傍聴人 2名

1.開会あいさつ 委員長

お忙しい中、本運営委員会にお集まりいただきありがとうございます。貴重なご意見を承る上で本センターを一層盛り上げていきたいと思っております。皆様どうぞご協力をお願い致します。

2.報告

新委員は、委員改選により南丹市身体障害者福祉会の吉野委員から平井委員、南丹市議会の仲村委員から平田委員となりました。

副委員長が退任の為、新副委員長の選出を諮り、平田委員を選出。

以下、村上委員長が議長となり議事進行。

3.議事

・平成29年度発達支援相談事業経過報告

事務局より資料1, 2を基に報告。

・平成29年度児童発達支援事業経過報告

事務局より資料3, 4, 5, 6, 7を基に報告。

・事業経過報告について質疑応答

⇒質疑なし

・平成30年度事業計画について報告

事務局より資料8, 9を基に報告。

・事業経過報告について質疑応答

委員：貴重なご報告ありがとうございます。児童発達支援事業の方針について、待機児童がないように今年度は午前と午後に2クラスずつ設営される等の工夫をされたことに敬意を称します。報告によると、送迎の確保に苦勞しているように思う。職員3名が福祉有償運転者講習に参加したということだが、専門職員が送迎までするとなると負担が大きくなり、療育の質を保つことができるのか、また今後利用者数が増加していくことも踏まえ、どのような体制にしていくか等の検討内容があれば教えて頂きたい。

また発達支援相談事業と児童発達支援事業双方に関わる支援ファイル・移行支援シートについて、学童期の連携というところで、先ほど支援ファイルに関して10組前後の利用と報告があった。資料2の表10から、移行支援シートはあまり伸びがみられないように思う。支援ファイル・移行支援シートに関する周知等来年度どのような計画か教えて頂きたい。

事務局：送迎に関して、今年度は運転手が急に休むということがあり、急な対応時のために職員が講習を受講した。常に送迎をしているわけではない。

事務局：今年度から午前、午後と分けたことにより、送迎は保護者に担ってもらう役割であるが、仕事をしていて送迎できない保護者もいるため、輸送サービスの利用

が増えた。専門職員のイレギュラーな送迎対応のために職員が講習を受講しておくことが必要であった。

事務局：支援ファイルと移行支援シートに関して、支援ファイルはいつからでも使えるため、幼少のお子さんにも渡しており、利用者数も多いことが考えられる。移行支援シートに関しては年長から小学校などと移行する時期に使用するもので、主に1月～3月に案内している。今回の資料は12月末時点で1件となっているが、本日までに10名に配布しており、3月末までにも配布数が増えると考えられる。また、つくし園、子育て発達支援センターからだけでなく、学校教育課からも勧めて頂くように今後も連携していきたいと思っている。

事務局：資料は去年の表も12月末までのデータにしている。今後は資料をもっと分かりやすくなるように検討していきたい。前年度の年度末のデータでは、支援ファイルが19件、移行支援シートは22件となっている。

委員：支援ファイルが全く浸透していない地域もある中、南丹市はとても熱心に取り組み利用も広がっていると思う。

委員：移行支援シートの追加の説明として、去年度も保育所・幼稚園から小学校への利用は多くあった。小学校から中学校は十数件、中学校から高校は2～3件だった。特別支援教育のガイドラインに文部科学省が新しく移行支援シートを積極的に活用するようという項目が増え、学校への指導指示にも同様の項目が追加された。また、特別支援教育コーディネーターの研修会を行っており、そこで各校のコーディネーターに案内を配布した。実際の配布数を現在調べている。移行支援シートに関しては支援ファイルよりもコンパクトで書きやすいという意見を保護者からきいている。

議長：ありがとうございます。他にご質問はありますか。

委員：待機児童について、どれぐらいの割合を考えているのか。亀岡市には5%いる。南丹市は手厚い。ただ、手厚すぎると事業が維持できなくなる。専門性があがればあがる程、専門職の身分保障が整っていくか、仕組みとして安定していくかが気になる。本当のところの待機児童0名とはすごく難しいことだと思う。亀岡市では80人程が医療機関の療育を利用している。外来は200人を超えている。外来受診をしているということは、障害を認知している人が200人近くいるということ。南丹市のケースを合わせればもっと多い。外来受診者全員に療育にきてもらうことはできず、限りがある。今のところ南丹市は療育をうまく案内できているようだが、全対象者の受け入れは難しいのではないかと。また保護者に覚悟をもって子育てしてほしいという思いもあり、療育利用時の送迎サービスはしていない。南丹市は、丁寧すぎるのではないかと。専門家になればなるほど、支援が必要な子がどうかの判断がはっきりしてくる。その全てを受け入れようとすると、対象の子ども達が一体何人になるのか、療育を受けるべき対象者数と受け入れられる人数をしっかりと把握しておいた方が良いと思う。

事務局：関連機関と連携し、療育対象人数を把握しているところである。そのため、待機児童の割合としては計算していない。

ご意見をいただいたとおり、今後受け入れていくことが難しくなることも考えられる。南丹市には民間で運営している事業所がなく、社会福祉協議会が市の委託事業として本事業を行っている。利用希望者の増加への対応については、市として今後の方向性を検討していく。

委員：社会福祉協議会も市と密に連携を取っている。早期発見・フォローがとても大事だと思っているが、社会資源が1つ、人員確保が厳しいという現状がある。それは運営側の反省でもある。また、保育士の募集も行っている。利用者数が増え、教室が増えていくことを考えると今の施設だけでは難しい。そのようなことも見通しをたてて支援をしていく必要があると思う。待機児童0だけでなく、課題改善を視野に入れて委託事業として取り組んでいきたい。

送迎の件に関してはイレギュラーの対応として職員が講習を受講した。今年度は運転手が後半の時期に人手不足になり、他部署から力をかりていたこともあった。今は仕事を退職され、社会貢献したいという方に運転手をしていただいている。

事務局：いただいたご意見も含め、しっかり検討していきたい。

事務局：子育て発達支援センターは来年度で9年目となる。当初に比べ変わってきた現状もあると思う。将来を見通したご意見を承り、検討していきたい。貴重なご意見をまた頂きたい。

議長：他の委員の皆様ご意見ありませんか。

⇒質疑なし

議長：発達支援事業及び児童発達支援事業経過報告及び事業計画について、承諾いただける方は挙手願います。

⇒全員挙手

議長：承認されました。

それでは、議事をこれで終わります。

議長退壇

4.閉会のあいさつ 副委員長

先ほどから貴重なご意見をいただきました。平成29年度の待機児童はなかったものの今後希望者数が増えることも考えられる。事業をすすめて頂き、よりよい支援ができたらいと思う。また、課題がでてきた際には市議会でも対応していきたいと思う。貴重な時間を有難うございました。